

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-520	15-323	慶應義塾大学
題名 (原題/訳)		
Gut permeability is related to body weight, fatty liver disease, and insulin resistance in obese individuals undergoing weight reduction. 腸の透過性は減量中の肥満個人で体重、脂肪肝疾患とインスリン抵抗性に関連する		
執筆者		
Damms-Machado A ¹ , Louis S ¹ , Schnitzer A ¹ , Volynets V ¹ , Rings A ¹ , Basrai M ¹ , Bischoff SC ² .		
掲載誌		
Am J Clin Nutr. 2017 Jan;105(1):127-135. doi: 10.3945/ajcn.116.131110.		
キーワード	PMID:	
腸管透過性、脂肪肝、肥満、減量インスリン抵抗性	28049662	
要 旨		
背景 肥満と関連する代謝異常は、腸のバリアの機能障害に関連がある。		
目的 我々は、減量プログラムを施行中の脂肪肝のある、およびない肥満患者でラクツロースとマンニトール (Lac : Man) の透過性を調べた。有効な減量プログラムが腸バリア機能を改善するかどうか、そして、その機能が脂肪肝の有無によって異なっているか否かを調査した。		
デザイン 27人の成人の非糖尿病個人 [BMI; (kg/m ²) : 43.7 +/- 5.2; (平均 +/- SD) で78%は中程度または高度の脂肪肝患者が肝臓脂肪症による] が追跡介入研究 (12ヵ月まで n = 13) に含まれた。すべての患者は体重を減量し、12ヵ月後に BMI が 36.4 +/- 5.1 となった。我々は、経口 Lac : Man と糞便 zonulin 試験によって腸管バリア機能を評価した。インスリン抵抗性は、典型的な評価インデックス (HOMA) によって、脂肪肝は超音波検査と脂肪肝インデックス (FLI) によって評価した。		
結果 Lac : Man 比率と循環するインターロイキン 6 (IL6) 濃度は介入の間、それぞれ 0.080 (95%CI : 0.073, 0.093) から 0.027 (95%CI : 0.024, 0.034; P < 0.001) まで、4.2 +/- 1.4 から 2.8 +/- 1.6pg/mL (P < 0.01) まで減少した。研究スタート時点で、Lac : Man 比率は、中程度または高度脂肪症患者でどんな脂肪症 (P < 0.001) のないそれらよりも高かった。Lac : Man 比率は HOMA (ρ = 0.55, P = 0.052) と相関する傾向があり、FLI (ρ = 0.75, P < 0.01) と相関した。重回帰分析により、BMI、胴囲、および Lac : 男性比によって FLI を最もよく説明する最終モデルが得られた。		
結論 : 脂肪肝のある肥満症患者では、そのない肥満患者と比較して腸管透過性は増加していた。増加した透過性は、減量後には既報の正常範囲内にまで低下した。これらの結果は、漏出性腸障壁が脂肪肝と関連することを、そして将来の脂肪症治療の新たな標的となり得ることを示唆する。 本研究は、NCT01344525 として clinicaltrials.gov で登録された。		